

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	19th Slavic Cognitive Linguistics Conference（SCLC-2024）での発表 および言語資料の収集
氏名 Name	谷浦 淳也
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	人間・環境学研究科 人間・環境学専攻 修士課程1年
渡航国 Country	ポーランド, チェコ, スロヴァキア
渡航日程 Travel schedule	2024年11月11日～2024年12月2日

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

報告者は、スラヴ語にみられる形態統語的な言語現象について、認知言語学的な観点で研究を行っている。本渡航では、(1) 国際学会での口頭発表、(2) 大学への訪問、(3) 西スラヴ語圏の言語景観の観察を主とする研究活動を行うため、ポーランド、チェコ、スロヴァキアに滞在する。

(1) 国際学会での口頭発表

11月13日から15日にクラクフ（ポーランド）にて開催される国際学会 19th Slavic Cognitive Linguistics Conference（SCLC-2024）において、“A cognitive approach to passivity in the OVS construction in Russian” というタイトルで口頭発表をする。また、スラヴ語を研究対象とする認知言語学の研究者と交流する。

(2) 大学への訪問

現地のスラヴ語学の研究者と交流し、今後の研究生活で必要となるネットワークの形成および研究に関する情報交換をするために、大学への訪問を行う。

(3) 西スラヴ語圏の言語景観の観察

西スラヴ語が話される国（ポーランド、チェコ、スロヴァキア）において、言語景観の観察・撮影および文献資料の収集をする。

成果 Outcome

本渡航の成果は以下のとおりである。

1. 国際学会での口頭発表

Junya Taniura, “A cognitive approach to passivity in the OVS construction in Russian” (Oral presentation, 19th Slavic Cognitive Linguistics Conference, Jagiellonian University, Kraków, Poland, November 14, 2024).

発表では、ロシア語および他のスラヴ語を認知言語学の観点で研究している研究者から貴重なコメントをいただいた。また他の研究者の発表では、スラヴ語研究および認知言語学を共通のテーマとしながらも、多種多様な研究テーマおよび研究方法が見られ、刺激的で貴重な体験となった。

2. マサリク大学教養学部スラヴ学科への訪問

11月26日にマサリク大学教養学部スラヴ学科を訪問した。現地のスラヴ語学の研究者との交流を図るため、

同学科所属の准教授 Elena Krejčová 先生に面会を申し入れたところ、同学科への訪問というかたちで招待してくださいました。訪問では、同学科の教員の方々から学科で研究されている学問分野などについて説明を受け、報告者は自身の研究分野や方法論などについて説明した。



対談後の記念撮影

3. 言語景観のデータ収集

言語景観とは、公共空間における視覚的な言語情報である。現在、ヨーロッパの各国はウクライナの避難民を受け入れており、看板にウクライナ語が併記されるなど、言語景観上の変化がみられる。本渡航では、西スラヴ語が話される国（ポーランド、チェコ、スロヴァキア）において、現在の国際情勢がどのように言語文化に影響を与えるのかを比較・分析するために、言語景観の観察・撮影を含む現地調査を行った。現地調査では、実際に現地に住む方々からも話を聞くことができた。

4. 学術誌および書籍の入手

現地の図書館や書店へ行き、日本で入手が困難である学術書などの文献資料を入手した。

今後の展望 Prospects for the future

本渡航を通して得た知識および資料を活かし、スラヴ語研究および理論言語学の発展に貢献できるよう、研究活動に取り組む。具体的には、学会で得た他の研究者からのフィードバックおよび現地調査で収集したデータを活用し、最終的に研究成果を論文としてまとめることを今後の目標とする。